

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙，目次，奥付，その他

雑誌名	研究報告集
巻	12
発行年	1991-03
シリーズ	国立国語研究所報告 ； 103
URL	http://id.nii.ac.jp/1328/00001343/

国立国語研究所報告 103 研究報告集12 (1991)

研究報告集

— 1 2 —

国立国語研究所

1 9 9 1

目 次

雑誌九十種資料の和語表記	宮島 達夫	1
	高木 翠	
パソコンによる語の認定処理	中野 洋	83
言語行動を説明する言語表現		
—専門的文章の場合—	杉戸 清樹	131
	塚田実知代	
方言東西対立分布成立パタンについての覚え書き ...	小林 隆	165
語彙理解度調査の方法		
—テストの信頼性・妥当性，理解尺度の適合性，		
テスト項目の数—	島村 直己	191
生きているアクセント規則の検討		
—東京語の単純動詞とその転成名詞の場合—	相澤 正夫	233
発話分析の観点		
—多角的な特徴記述のために—	中田 智子	279

刊行のことば

『研究報告集』は、国立国語研究所において、研究員等がそれぞれの研究段階で行った基礎的研究や付随的研究、また研究方法に関する実験的調査、結果を確認するための検証調査等についての小報告をまとめて公にするものです。

今回は、7編の論文をもってその第12集とし、ここに刊行することになりました。

国語研究に寄与することができ、また教示、批判が得られれば幸いです。

平成3年2月

国立国語研究所長 水 谷 修

第1集

「も」によるとりたて形の記述的研究 高橋太郎

雑誌九十種資料の漢語表記 宮島達夫・高木 翠

談話行動の実験社会言語学的研究——目標と資料収集方法について——

江川 清

身ぶりの記述について 江川 清

身振りを記録する——「変位」の記録試案—— 杉戸清樹

談話行動の計量的研究について 米田正人

表現法の調査方法について 佐藤亮一・真田信治・沢木幹栄

明治初期東京人の階層と語種との関係

——『安愚楽鍋』を中心として—— 飛田良文

第2集

意味分野と語種 宮島達夫

日本語の機能動詞表現をめぐる 村木新次郎

談話行動の総合テキストについて 南 不二男・江川 清・米田正人・

杉戸清樹

文章朗読における調音上の特徴について 高田正治

幼児の使用語と語の意味の理解

——満2歳当日の一日調査から—— 大久保 愛

語の意味発達——最近の研究動向から—— 岩田純一

談話における「はい」と「ええ」の機能 日向茂男

音韻における日本語五母音体系 石井久雄

第3集

コ・ソ・アの指示領域について 高橋太郎・鈴木美都代

叙法副詞の意味と機能——その記述方法を求めて—— 工藤 浩

私生児を意味する方言のこと 渡辺友左

撥音の実験音声学的研究 高田正治

新聞の漢字含有率の変遷——明治・大正・昭和を通じて—— 梶原滉太郎

就学前幼児の語彙——4児による日常生活語の実態——

大久保 愛・川又瑠璃子

各種文章の字種比率 佐竹秀雄

第4集

迂言的なうけみ表現 村木新次郎

動詞とその下接語の発達の実態

——男児の2歳から3歳前半まで—— 大久保 愛

小学校低学年用国語教科書の用語 島村直己

分散処理端末における簡易型エディタについて 斎藤秀紀

第5集

「～が ある」の用法

——(あわせて)「人がある」と「人がいる」の違い——

高橋太郎・屋久茂子

雑誌九十種資料の外来語表記 宮島達夫・高木 翠

敬語の使い分け点 野元菊雄

津軽方言における単純疑問と疑問詞疑問 沢木幹栄

スカウト方式による用例採集法の実験について 高梨信博

漢字の読み書き調査の調査方法

——調査問題の作成方法の検討を中心に—— 島村直己

会話形式によるファイル管理情報の生成 斎藤秀紀

有形代名詞と無形代名詞

——日本語とインドネシア語の比較—— 正保 勇

日本語と外国語との照応現象に関する対照研究

上野田鶴子・正保 勇・田中 望・菱沼 透・日向茂男

第6集

敬語のパネル調査から(その1)——合計点と適応点—— 野元菊雄

促音の調音上の特徴について 高田正治

一児童の漢字習得 村石昭三

漢字コードの拡張法に対する試案 斎藤秀紀

概念情報処理 田中卓史

倒置構文に関する一考察

——日本語とインドネシア語との比較—— 正保 勇

ドイツ語挨拶表現の類型化操作について 石井久雄

第7集

公文書のあて名の敬称——一般個人あての場合—— 杉戸清樹

読みの眼球運動と読みの過程 神部尚武

小学校配当漢字外常用漢字の読み

——中一、高一を対象にした自己判定方式に

よる調査の結果から—— 島村直己

同形異語判別への仮名漢字変換処理の応用 斎藤秀紀

受動構文に関する一考察

——日本語とインドネシア語との比較—— 正保 勇

あるラテン語動詞活用表 石井久雄

第8集

標準語オトウサン・オカアサンの出自 渡辺友左

『日本言語地図』関連意味項目の全国方言調査 小林 隆

児童の漢字使用——課題作文の漢字含有率から—— 島村直己

光ディスクを使用した大量日本語データの蓄積 斎藤秀紀

話者の価値判断——その合意性と異言語への伝達の問題—— 西原鈴子

追加付加詞と追加接合詞に関する一考察

——日本語とインドネシア語の比較—— 正保 勇

第9集

本文批判 石井久雄

漢字情報データベース 斎藤秀紀

集合型言語の確定節文法 田中卓史

異言語間伝達における結束性の移行 西原鈴子

述語補文について

——日本語とインドネシア語の場合—— 正保 勇

日本語における重なり語形の記述のために 日向茂男

第10集

コンアト代名詞はどんなものをさしうるか

— 直接的な用法のばあい — 高橋太郎・鈴木美都代

読みの眼球運動における一つの停留中の情報の受容範囲 神部尚武

ダイナミックバラストグラフィによる青森方言の分析 高田正治

児童の漢字学習 — アンケート調査の結果から — 島村直己

キーの階層性を利用した異なる日本語データベースの統合 斎藤秀紀

日本語動詞自・他の意味的対応 (1)

— 多義語における対応の欠落から — 沼田善子

第11集

『中央公論』1986年の用語 石井久雄

大学一般教育における「文学」「言語学」 島村直己

北海道における共通語使用意識

— 富良野・札幌言語調査から — 相澤正夫

インドネシア語の定名詞句と不定名詞句

— 日本語との比較を通して観た — 正保 勇

「日本語研究文献目録・雑誌編」にみる国語研究の動向 山崎 誠

シンポジウム・これからの日本語研究

平成3年3月

国立国語研究所

〒115 東京都北区西が丘3-9-14

電話 03-3900-3111(代表)

FAX 03-3906-3530

UDC 809.56(082)

NDC 810.5

本書の市販品発行所

〔〒112〕東京都文京区関口1-24-4-302 (03)3260-5281

株式会社 秀英出版

OCCASIONAL PAPERS -12-

MIYAZIMA Tatsu, TAKAGI Midori : The Notation of the Native Japanese Words in 90 Magazines

NAKANO Hiroshi : Automatic Processing of Japanese Sentence for Word Counting by Personal Computer

SUGITO Seiju, TSUKADA Michiyo : On Metalingual Expressions Referring to the Type of Linguistic Behaviour

KOBAYASHI Takashi : On the Formation Pattern of the Opposition between Eastern and Western Dialects

SHIMAMURA Naomi : A Method to Assess Degree of Comprehension about Vocabulary Items—Tests' Reliability and Validity, Appropriateness of Comprehension Scales, Number of Test Items—

AIZAWA Masao : Examination of an Active Accentuation Rule in the Tokyo Dialect

NAKADA Tomoko : Viewpoints for the Analysis of Utterances in Discourse : A Multi-sided Characterization

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
3-9-14 NISIGAOKA, KITA-KU, TOKYO

1991